男女共同参画の視点からの復興
～参考事例集～

第 23 版（追加分のみ）

令和 3 年 4 月 21日

復興庁男女共同参画班

復興庁
Reconstruction Agency
復興・創生　その先へ

― 男女共同参画の視点からの復興　参考事例集とは ―

「東日本大震災からの復興の基本方針」の基本的な考え方では、「復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進する」「子ども・障害者等あらゆる人々が住みやすい共生社会を実現する」としており、多様な生き方を尊重し、全ての人があらゆる場面で活躍できる男女共同参画社会の実現に向け、復興に当たっても、男女共同参画の視点が必要です。

復興庁男女共同参画班では、自治体や各地で活躍する方々の参考となるよう、まちづくり、仕事づくり、健康づくりなどの分野に関し、女性が活躍している事例や被災地の女性を支援している事例等を収集しています。

今後も、引き続き事例を収集し、公表していく予定です。

＊ インデックスの凡例 ＊

各ページ右上のインデックスの凡例は、以下のとおりです。
各事例で該当する部分は色を濃くして表示しています。

まちづくり　行政と協働し、まちづくり計画の策定・提言、これからどのようなまちに復興していくか検討する取組

仕事づくり　就業支援、起業支援、産業の創出や地域経済の活性化に関する取組

健康づくり　心身の健康維持・増進のための取組

居場所づくり　孤立を防止するための場づくりや、ネットワークづくり、地域の人が集まるスペースづくりなど、様々な人と交流や情報交換を行うための場を提供するための取組

人材育成　地域住民やNPO、自治体職員など、復興を担う人材を育成するための取組

情報発信　復興に向けた被災地の現状を伝える取組や、東日本大震災の記録を残すための取組

＊上記以外について重要なワードがあるものは、その他の欄を活用し、重要なワードを上書きしています。

目　次

分野	事例	実施主体など
仕事づくり	1　女性ならではの発想で、「ふくしまプライド。」を世界に発信	株式会社ももがある

※事例が複数の分野にわたる場合は代表的なものに分類しています。

★印の事例は、既に掲載済みの事例ですが、その後の取組状況を追記しています。

116 女性ならではの発想で、「ふくしまプライド。」を世界に発信

株式会社ももがある

令和 3 年 1 月現在

岩手 宮城 福島 広域
まちづくり 仕事づくり 健康づくり
居場所づくり 人材育成 情報発信
その他

『株式会社ももがある』の社名の由来は、「福島には美味しい”もも”がある。」と「桃ガール」をかけている。経営者も加工場で働くスタッフも全員女性。

取組主体	民間団体
対象者・受益者	地域の農家、女性
実施時期	平成28年3月～
活動地域	グローバル、国内
キーワード	地域ブランド力の向上、風評被害払拭、女性活躍

取組ポイント

震災以降、風評被害など福島県の農家にとって課題が山積する中、「もったいない」の発想から、廃棄されたり、安価で取引される完熟桃などを農家から適正価格で買い取り、冷凍桃や加工品を製造。全国、世界を市場に福島の農産物の安心・安全を発信している。

取組の背景・経緯

○ 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故後、放射性物質検査において安全であるとの結果が出ているにもかかわらず、福島県産の農林水産物を不安視して買い控える風評被害が一部に続いている。そこで、福島県は、農産物などの県産品や観光サービスなどを全国に伝えるためのメッセージ「ふくしまプライド。」を県外に向け積極的に発信し、『安心・安全』を PR している。

○ 福島県の特産物の 1 つに桃がある。収穫量は山梨県に次いで全国 2 位（約 25%　2019 年農林水産省農林統計部調査）である。しかし、桃はデリケートな果物なため、早摘みが必須となり、完熟桃は規格外扱いになるなど、出荷基準は厳しい。

○ 「株式会社ももがある」は、2016 年 3 月に設立。会社を設立する以前に、震災復興支援として、県内の観光資源を見直すため桃農家を取材していた代表が、規格外となった完熟桃が破格の価格で纏め売りされたり、廃棄されたりする「もったいない」実情に注目した。

○ さらに、「桃の漬け物」製造・販売を生業とする加工場が風評被害の影響を受け、廃業を余儀なくされる状況があり、ここでも地元の特産物や、培ってきた加工技術が消えてしまう「もったいない」を解決しようと、福島の桃農家・生産者のために動いた。

取組の概要

○ まずは、桃農家から廃棄される予定の樹成り完熟桃を買い取り、試行錯誤の末、本来の完熟桃のおいしさを伝える無添加・無着色の瞬間冷凍した桃の加工品を開発した。

○ 加工場は、風評被害で廃業に追い込まれた「桃の漬け物」工場を買い取り、資源を生かして、経営未経験ながら、新会社を設立した。

○ 会社設立後は、テスト販売として、瞬間冷凍桃をイベントや県内外の物産展に出店し、福島の桃の PR 活動を行った。その後、2016 年秋にオンラインショップを開設、飲食店などとのコラボも行っている。

○ 2017 年、市場拡大を求め、これまでのネットワークの力を借りて、オーストラリアで日本食事業関係者と交渉。2018 年から瞬間冷凍桃の輸出販売を開始した。

○ 2019 年には、パリやバンコクにおいて、「東北の食」をテーマとした試食商談会に出店し、市場拡大と共に福島の復興に関する情報発信を行っている。

工夫した点・特色

○ 農産物の廃棄や廃業といった「もったいない」の発想が、早期に新たなビジネスをつくること（創生）に繋がった。

○ 農家から農産物を「適正価格」で買い取り、農家の後継者が将来安心して農業に取り組めるように、ビジネスパートナーとして環境づくりに協力している。

○ 2018 年、クラウドファンディングを利用し、資金調達を行った。このリターンとして、桃農家体験や桃狩りのイベントに参加してもらうことで、福島の桃の PR を行った。

○ 経営者（代表）も含め、スタッフ全員が女性。幅広い年代の女性が、女性ならではの発想で商品の開発・製造を行っている。

○ 早期に市場を海外に展開し、福島県産の食の安全と安心の情報発信を行った。

取組の効果

○ 廃業する桃の加工場を買い取ると同時に、スタッフも引き続き雇用し、技術と人材資産を引き継ぐことができた。また、被災地の幅広い年代の女性の雇用ができた。

○ 農家にとっては、従来廃棄・安価で取引されていた完熟桃などの農産物を「適正価格」で買い取ってもらえることで、廃棄せず出荷できる喜びと収入増につながった。

○ 福島の食品に対する各国の輸入制限が緩和されつつある中、パリでの食品試食会などのように、若手農業生産者が協働して「東北の食」文化を PR することで、ブランド化を推進することに繋がっている。

○ 令和 2 年度「企業による産業復興事例顕彰」（復興庁）

桃農家の想い

完熟した桃はとても美味しいにもかかわらず、 正当に出荷できず、タダ同然だった桃たちが、適正な価格で買い取りしてもらえるようになりました。そして「瞬間冷凍した桃製品」として生まれ変わったことで、 完熟桃ならではの味を楽しんでもらうことができるようになり、 前向きな気持ちで完熟桃たちを送り出しています。 （福島飯坂・鈴木農園）

助成金など支援・協働にかかわる情報

○ フェリシモ 東日本大震災復興支援

○ JPモルガン主催「東北の食」試食商談会参加

連絡・問い合わせ先
株式会社ももがある
〒960-8156 福島県福島市田沢字木曽内前6-8
TEL：024-547-3888 HP：https:// momogaaru.co.jp

＊掲載写真は株式会社ももがあるからの提供によるもの